資料6

本日欠席の委員からのご意見

2026年 10月 19日
滋 賀 県

Shiga Prefecture 滋賀県

目 次

本日欠席の委員からのご意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

本日欠席の委員からのご意見

● 日本労働組合総連合会滋賀県連合会　事務局長　相澤委員

県庁舎が目指す方向性（コンセプト、求められる機能）案について

- 今回示された「高度な行政サービスを提供でき、安心・安全で、まちと繋がる次世代の県庁舎」というコンセプトについては、基本的に賛同するところ。
- 県庁舎の整備にあたっては、建物そのものの機能を充実させることだけでなく、今後の行政のあり方や働き方をどのように変えていくのかという視点が重要だと考えている。特に、これからの人口減少や人手不足を考えると、県庁においても限られた人員で質の高い行政サービスを提供していくことが求められる。そのためには、DXやAIの活用による業務の効率化とともに、職員一人ひとりが能力を十分に発揮できる職場環境の整備が必要。また、行政手続きの電子化やテレワークなどが進む中で、すべての機能を大津の県庁舎に集約することが本当に必要なのかという視点も持つべきだと思う。
- 本庁舎と地方合同庁舎が連携することで、県民がどこに住んでいても質の高い行政サービスを受けられる仕組みを構築することが大事だと思う。一方で、今回示されている交流スペースや飲食施設などについても、県民に開かれた庁舎という意味で必要性は理解できるが、それぞれの機能が県民にどのような価値をもたらすのか、また将来的な維持管理費も含めて検討する必要があると思う。歴史的な価値を有する本館については、これまでも申し上げてきたとおり、できる限りその価値を残しながら、現役の建物として活用していくことが望ましいと考えている。
- 今回のコンセプトには「次世代の県庁舎」という言葉があるが、何が次世代なのかという点を、もう少し明確にしてもよいのではないか。単に新しい建物を整備するのではなく、行政サービスの質を高め、職員の働き方を変え、県民や地域社会とともに新しい価値を生み出していく。そうした、将来にわたって持続可能な県政を支える庁舎を目指すという考え方を、コンセプトにより明確に位置づけていただければと思う。

本日欠席の委員からのご意見

● 日本労働組合総連合会滋賀県連合会　事務局長　相澤委員

望ましい配置案、整備工程について

- 機能面からD案が高く評価されていることは理解できる。一方で、今回の整備は今後数十年にわたって使用する県庁舎を考えるものなので、現在の職員数や働き方を前提にするだけではなく、将来の行政のあり方を踏まえた検討が必要だと思う。特に、今回の資料では職員の出勤率を100%として面積を算定されているが、DXやAIの進展、テレワークの活用などを踏まえた場合、必要な執務面積がどの程度変わるのかについても検証していただきたいと思う。
- また、整備期間が11年から13年という長期間に及ぶことから、工事期間中の職員の負担や県民サービスへの影響についても、配置案の評価に加える必要があると考える。その上で、将来の維持管理費を含めた財政負担と機能面の向上を総合的に比較し、県民に説明できる形で整備案を選択していくことが重要だと思う。

まちづくりにおける県庁舎の役割について

- 大津駅から琵琶湖へつながる回遊の中継点という方向性に賛同する。
- 歴史的な価値を持つ本館を生かしながら、県民が気軽に訪れることができる空間を整備することは、県庁舎の新たな魅力につながると思う。一方で、県庁舎の中に交流施設やにぎわい施設を整備することだけで、まち全体の活性化につながるのかという点については、もう少し検討が必要だと考える。特に、大津市や周辺の商店街、民間事業者などとの連携を具体化し、県庁舎を訪れた人が周辺地域にも足を運ぶ仕組みをつくることが重要ではないか。
- また、県庁舎ならではの役割として、行政、企業、大学、労働組合、市民団体など、さまざまな主体が集まり、地域課題の解決につながる交流や連携を生み出す場としての機能も期待したい。にぎわいを生み出すこと自体を目的とするのではなく、その結果として、地域経済の活性化や県民生活の向上につながる県庁舎を目指していただきたいと思う。

本日欠席の委員からのご意見

● 日本労働組合総連合会滋賀県連合会　事務局長　相澤委員

地方合同庁舎のあり方について

- 人口減少やDXの進展、施設の老朽化などを踏まえ、将来の行政サービスの提供体制を見直していく必要があると考える。その上で、重要なのは、施設の集約や効率化が県民サービスの低下につながらないようにすることだと思う。特に滋賀県の場合、地域によって人口構成や交通事情、行政需要が大きく異なるため、一律に施設を集約するのではなく、それぞれの地域の実情を踏まえた検討が必要だと思う。
- また、DXの進展によって、本庁舎に集約できる業務や、オンラインで対応できる業務が増える一方で、現地での対応や専門的な相談、災害対応など、地域に職員がいることが必要な業務もあると考える。そのため、まずは本庁舎と地方合同庁舎が担う業務を整理し、どのような機能を地域に残す必要があるのかを明確にすることが重要だと思う。
- 加えて、地方合同庁舎の再編は、そこで働く職員の働き方や業務負担にも影響する。現場の職員の意見を十分に聞きながら、行政サービスの質の向上と職員の働きやすさを両立させる視点も必要ではないか。
- 高島モデルの取り組みについては、今後の参考になるものと考えるが、各地域の特性に応じて柔軟に展開していただきたいと思う。

本日欠席の委員からのご意見

Shiga Prefecture 滋賀県

● 日本労働組合総連合会滋賀県連合会　事務局長　相澤委員

地方合同庁舎のあり方について

- 県庁舎の再整備と地方合同庁舎のあり方は別々に考えるのではなく、県全体として、どのような行政サービスの提供体制を構築していくのかという視点から、一体的に検討することが重要だと考える。
- 今回、大津合同庁舎の本庁舎への集約を前提とした配置案が示されているが、一方で、地方合同庁舎全体のあり方については、行政経営方針2030の中で今後検討していくこととされている。そうであれば、まず県全体の行政サービスの提供体制や、本庁舎と地方機関の役割分担について一定の方向性を整理した上で、県庁舎の必要規模や配置を検討することが必要ではないか。
- 施設整備を単なるコスト削減の議論にせず、県民サービスの維持・向上と、そこで働く職員の働き方の改善を一体的に考えることが必要だと感じた。

本日欠席の委員からのご意見

Shiga Prefecture 滋賀県

●株式会社文教スタヂオ　代表取締役　一圓委員

中庭の室内化・新棟の屋上について

- 本館中庭を室内化することで、様々な団体が多様な活動をすることができる。一方で、天窓の掃除や空調設備など、建設や維持管理にかかるコストが懸念事項
- 新棟ができると敷地内に空間的な広がりが生まれ、すごく良い。
- 新棟の屋上イメージについて、大きなガラスがあることで、外を眺めることができ、開放感も感じられる。また、人工芝で職員もくつろぐことができる。
- 屋上は防護柵がないと危ないので、警備体制を含めた安全配慮をしっかりと考えなければならない。事故が起きてしまったら、一般開放した屋上が使えなくなってしまい、無駄になってしまう。
- 中庭の室内化・屋上については、整備・運用する際に様々な検討事項が出てくると思われる。作ったは良いが使わなくなったということが一番ロスなので、しっかり事前検証と対策をしてほしい。絵に描いた餅にならないように。
- 県のシンボルとして県民みんなが利用しないと意味がない。

職場環境について

- 職種による業務の違いがある中で、フリーアドレスだけで業務を行うのは難しいと思う。また、絵では良いと思ったものが、実際に働くとギャップを感じるケースも多い。
- 今はデジタル変革を中心とした時代の転換期だが、どこまで紙を無くすことができるのか、まだ分からない状況
- 保管方法も、紙ベースとデジタルベースでは管理方法が大きく変わるので、方針の検討が必要

本日欠席の委員からのご意見

Shiga Prefecture 滋賀県

●株式会社文教スタヂオ　代表取締役　一圓委員

配置検討案・概算事業費について

- 配置検討案について、従来は建物の中だけを改装する方が安く・早かったが、最近の状況は異なる。A案の場合でも既存の内装を剥がすといった作業だけで、高い費用がかかるようになってきた。
- エアコンを更新するだけでも電気代が大幅に下がる時代であり、古い設備・建物を使い続けると、それだけでお金がかかる。結果として、新築の方が安くなることがある。
- D案と比較するとB案やC案は費用が大きく変わらず、あまり意味がない。
- 費用面が一番の懸念事項。県の財政力に合った庁舎整備になっているのか。
- 県庁舎に関係する増収策が県としてあると良い。

まちづくりについて

- まちづくりに関して、回遊性をもたせるには人目につくような施設・シンボルが必要であり、大津市中心部にある観光スポットについても、より一層の盛り上がりが必要

本日欠席の委員からのご意見

Shiga Prefecture 滋賀県

●滋賀県立大学人間文化学部　教授　京樂委員

県庁舎が目指す方向性（コンセプト、求められる機能）案について

- DXの進展は望ましいことなのですが、最近の不正アクセスなどのサイバー攻撃の影響を見ますと、アナログ部分も残しておく必要があるのかとも思う。全てをDXに頼らない、というバランスが大切なのだと思う。

望ましい配置案、整備工程、まちづくりにおける県庁舎の役割について

- D案が良いと思う。背後とはいえ本館の姿を目にする機会が増え（JRからも見えるのでは？）、広場もあってゆとりを感じる。緑化駐車場は、夏の雑草対策が大変かもかもしれない。

地方合同庁舎のあり方について

- 資料5、P4の図を見て、「信長の琵琶湖城郭ネットワーク」を思い出した。安土城を中心に、坂本城、長浜城、大溝城を水運で連携させるという、現代の研究者による発想
- 今は、DXによって連携できる。高島モデルに注視したいと思う。